

スコットランド便り

VOL.1

## バーンズ・サパー

ITSUKO ALSTON

(文・写真とも)



中で暮し、詩人として認められな  
いまま37歳で短い人生を閉じまし  
た。しかし今ではスコットランド  
の国民的英雄として仰がれ、尊敬  
されています。

この地では、毎年1月25日に  
なると、詩人バーンズの名の下に各  
地で人が集まり、彼の詩が朗読さ  
れ、歌が唄われ、スコッチウイ  
スキーを飲み交わし、セレモニーを  
交えた食事をします。この行事、今ではスコットランド  
の伝統行事のひとつに定着し、「バ

スコットランドはイギ  
リスの北部に位置し、北  
海道ほどの面積を有しま  
す。首都は中世の美しい  
お城を持つ古都・エジン  
バラです。

このスコットランドに  
今から200年ほど前  
「ロバート・バーンズ」  
という詩人がいました。

貧しい農民の子として生  
れ、生涯の大半を極貧の

ジェスチャーたっぷりにハギスに呼びかける男性。  
テーブルに見えるのがハギス。



ーンズ・サパー」と呼ばれていま  
す。バーンズの歌の代表作といえ  
ば、彼の光「故郷の空」「アニーロ  
ーリー」等で、日本の皆様にもお  
馴染みの曲です。

このバーンズ・サパーで、一番  
のクライマックスは、スコットラ  
ンドの名物料理・ハギス\*が登場  
してくる場面です。スコットラン  
ドには有名な民族楽器、バググバ  
イフ\*があります。この楽器の演

奏と共にシェフがお盆の上にハギ  
スを載せ、恭しく部屋に入ってい  
ます。テーブルに到着すると、民  
族衣装をまとった男性が、バー  
ンズ作の「ハギスへ献ず」の詩を声  
高らかに、ジェスチャーたっぷりに  
朗読します。

ハギスは腸詰め一族の領主とも  
言われるほど高級なもので、羊の  
内臓の挽き肉とからす変をソーセ  
ージに詰めたものです。聞こえは  
よくないかもしれませんが  
んが、食べてみるとな  
かなか美味です。詩の  
朗読の後、彼はハギス  
がまるで生き物かのよ  
うに話しかけ、最後に  
そのハギスをナイフで  
減多切りにしてしま  
うのです。残酷なよう  
ですがハギスへの詩はこ  
の料理への賛美にほ  
かなりません。ハギスは  
スーパーでも買えます  
が、正式にはバーンズ



●イツコ・オルストン「イギリスは  
目録。スコットランドの観光ガイド  
ガイドとして、日本人旅行者を案内す  
る際、イギリス全体のガイドも担当  
翻訳・翻訳の仕事もこなす。

の誕生日を祝う「バーンズ・サ  
パー」に食べることになっています。  
先般、エジンバラに日本領事館  
がオープンし、初代の領事がダン  
フリーズという街で開かれた本家  
本元のバーンズ・サパーに名譽ケ  
ストとして招待されました。領事  
はこの伝統的なスコットランド文  
化に深く興味を示し、キルトのス  
カートをはいてバググパイプを吹  
き、ハギスへの詩の朗読もマスタ  
ーし、さらにバーンズに代わって  
「ゴルフへの詩」まで作り、スコ  
ットランドで有名になっています。  
この新聞記事が目にとまりました。